

「本校の道徳研究」

1年間の歩み

足利市立三重小学校 道徳研究部

1 はじめに

本校では、昨年に続いて国語・算数を重点研究教科としてとりあげることが4月に発表され、全職員を二つのグループに分けて組織を作った。

そして、それと同時に道徳も重点的に扱ってほしいということが決定した。それは、道徳教育の重要性を唱える教育の方向をかながみでのこと、また、毎週一時間設けられている「道徳」の時間をいやがることなく教師や児童が迎えられるようにするには、教師ひとりひとりが道徳教育についてよく知っておくことが必要だと考えたからである。さらに、道徳に関する書物や研究会等で耳にする「価値の一般化」とか「価値への導入」などということばについても、正しく理解していきたいという要望等もあったからと思う。そして、各学年から1人ずつ、計6人をもってこの研究部の仕事は始められた。ここに提出した資料は、他校の先生方から見れば、まことにささやかな、当然しななければならない事ながらも。先生方から今後の研究の方向等についてで指導いただきたいと考え、勇気をふるって、ここにこの一年歩んできた道をのべてみた。

2 年間の計画

年間の仕事の計画を大きく三つの学期で考えた。

1学期……全体計画と年間計画の補正、資料の収集

2学期……指導法の研究と資料の収集（9・11月には研究授業を行なう）

3学期……指導法の研究（2月に研究授業を行なう）

3 1年の歩み

(1) 放送利用の授業（開放連 大会のための資料作成……視聴覚部からの依頼）

視聴覚主任から、テレビを使ってテーマにそった授業をしてほしいとの依頼をうけた。そこで、部員が話し合った結果、2年生児童をかりて道徳主任が授業をすることになった。「みえないかきね」というテレビ放送を使ったわけであるが、これが、本校で、他の先生方が参観している中で行なった、初めての授業であった。成果はともかく、授業の流れというものを、研究するよい機会であった。

(2) 全体計画ならびに年間指導計画作成のための研修会（全職員）

本校では、市の年間指導計画をもとに、実際に即したものとして41年に年間計画をつくっている。しかし、そこにとりあげられている資料を見ると、文部省からだされている指導資料集がまったくとり入れられていない。また、4月の第1週は何の価値に関する主題、第2週は何に関する主題というように全学年共通の方法によって主題を配列している点や主題名の中に、これは生活指導の場で行なうべきものだろうと考えられるものなど、まだなおすべき点はたくさんある。そこで、それら補正の理由をこの会で説明し、話し合いをし、全職員に理解してもらった。ここに、「道徳指導

の諸問題」の45ページの「道徳の年間指導計画の作成の手順」をとりあげ、補正するというだけでなく、新しく検討しなおし、作るというくらいの気持ちであるよう確認しあった。

そこで、次のような補正の観点をもとに各学年の仕事にはいってもらった。

(補正の観点)

1 主題名について

ねらいに基づくものの中で、児童の心情に訴え、その内面から道徳性を養うものにする。

(例) 「最後までがんばろう」

「おかあさんありがとう」

2 主題のねらい設定について

素材を含まないねらいにする。

(例) 自分の仕事に責任をもつことの必要性を理解させる。

3 文部省指導資料集の扱いについて

積極的にとり入れる。それとともに読み物資料中心にならないよう心がける。なお、仕事をしやすくするために、各学年に次の二つの資料を与えた。一つは、今まで年間指導計画に見られた、内容項目のとりあげのようすを示したもの(表A)あと一つは、適切な資料を選択する際に、どういふ価値に対して、文部省指導資料集や新しい生活(副読本)では、どんなものを取りあげているかを一らんにしたもの(表B)である。

A表 本校年間指導計画に見る内容項目のとりあげ状況(●印は文・資、副読本に資料なし)

	1	2	3	4	5	6
1	○○	○○○	○○	○○○	○○	○
2	○○	○	○	▼	▼	▼
3	○○○	○	○	○○	○	○
1 2	○	○○	○○	○	○○	○○○○
2 6	○	○○○	○○○○○	○○	○	
2 9	○○○○	○○	○○○	○	○	○○
3 2	○○	○○	○	○○	○○○○	○
3 3	○○	○	○	○	○	○
3 4	▼	○			○	○○
3 5	○	▼		○	○	
3 6	▼				○	○

これを見るとすぐ気がつかれると思うが、内容項目1では、どの学年が重点的にとりあげるのかわからない。3についても、1年で3時間抜く必要があるなら、2年では2時間抜いにしておいたらどうだろうか。それを1時間しか抜わずにおいて、4年になると2時間抜いをしている。また、

6年の12項目, 3年の26項目, 1年の29項目, 5年の32項目のように, たとえそこに学年の重点がおかれているといっても, 4時間, 5時間, 4時間, 4時間と, 全時間の $\frac{1}{9}$ も費やす必要があるだろうか。だれが考えても答えは簡単だと思う。口では児童の発達段階を考慮し, 学年のたての系統を考えて計画をたてたといっても, 実際には生かされていない。というようなことも話し合いに出, そういう点にもじゅうぶん注意し合うことを, 資料を参考にしながら確認した。

B表 資料一らん

(例 1年)

月	本校	項目	副読本	1集	2集	3集
4	よいへんじ ㊦	15	みんなにここに	明るい子ども ㊦	泣いたらだめ ㊦	
	おさるの学校 ㊦	6	ベルがなりました	遊びの相談 ㊦	チャイムがなった ㊦	チャイムがなった ㊦
	きんたろう ㊦	15	4月参照	左同	左同	
	ほちのけが ㊦	16	しろのけが	日本の花 ㊦		みんながほっとした ㊦

付 本校の年間指導計画にとりあげられていない項目に対する資料(上記の表のあとにつけ加えておいた)

項目	副読本	1集	2集	3集
10	だれがこわしたのおおかみがきた	うそつき羊飼 ㊦	すみおくんの失敗 ㊦	やくそく ㊦ ほんとうのことをいおう ㊦
17			光ったお星さま ㊦㊦	きれいな心 ㊦
11			みみずくとお月さま ㊦	
19	いっすんぼうし ことしもしっかり	一寸法師 ㊦		

(3) 年間指導計画補正のための研修会(2回目)

研究をし、話し合ってから資料を各学年に配布したからといって、毎日を道徳研究に費すわけにはいかないで、すぐに年間指導計画が補正されるとは考えなかった。しかし、学期末のいそがしさで忘れては困るので、再度かんたんな話し合いの場をもち、次のような印刷物を配布して、さらに依頼をした。

〈道徳年間指導計画補正について、夏休み終了までの仕事のおねがい〉

① 仕事の内容

資料を選択しなおして、月別に配列しなおす。

② 資料選択にあたって考慮すること

- ア ねらい達成にもっともよいもの
- イ 本校のものを中心に考え、文部省の指導資料を積極的にとり入れる
- ウ 読みもの資料のみにかたよらないこと
- エ 生活指導的なものはのぞく

③ 内容項目のとりあげ方について

- ア 必ずしも36項目全部にふれなくともよい
- イ どの項目を除き、どの項目に重点をおくかは、児童の実態・文部省指導書の内容項目の解説を参考にする
- ウ ある項目にかたよらない

④ 月別配列について

どの学年も、同じ月に同じ内容項目を扱うとはかぎらない。(資料の内容・季節・学校や地域の行事なども考慮に入れる)

〇年 月別主題配列一らん 記入表

月	項目	資料種類	主題名	月	項目	資料種類	主題名

どの学年も8月いっぱいをもって、年間指導計画補正のための資料(月別主題配列一らん)を提出してもらい、部員で検討を加えたのち、印刷して全職員に配布した。

※ 前に指摘のか所は、次のように修正された。

学年 内容項目	1	2	3	4	5	6
1	〇〇	〇〇〇	〇	〇	〇	
3	〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
12	〇	〇	〇〇	〇	〇	〇〇
26	〇	〇〇	〇	〇	〇	〇
29	〇〇	〇	〇	〇	〇	〇
32	〇〇	〇〇	〇	〇〇	〇〇	〇

年 間 計 画 (例) 4 年

月	主 題 名	時間	主 価 値	指 導 目 標	資 料
4	少女車しょう	1	27	だれに対しても勇気をもって公平な態度をとることがたいせつなことを理解させる。	説話または録音文 Ⅲ P 7 4
	焼き肉さんおやすみ	1	15	つねに明るく、すなおに行動しようとする心情を育てる。	読み物文 Ⅱ P 4 4
	はっきりいおうよ	1	8	自分の正しいと思う意見は、率直にのべ、みだりに他人に動かされずに行動し、より高い希望にむかって努力する態度を養う。	読み物 新しい生活 P 2
5	スパーンダム少年	1	32	公共物をたいせつにし、すすんでそれを守ろうとする態度	読み物 新・生 P 8 3

また、資料のとりあげ方もあまり一方にかたよらず、次の表のとおりになった。

資料の種類 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
話 し 合 い	0	1	0	2	4	2	9
読 み 物	18	20	23	19	21	22	123
作 文	1	1	4	2	3	0	11
説 話	0	1	2	2	0	4	9
紙 し ば い	0	5	0	1	0	0	6
絵 ば な し	14	3	0	0	0	0	17

スライド	2	2	5	4	4	4	21
映画	0	2	0	0	1	1	4
テレビ	0	0	0	0	0	0	0
録音	0	0	5	5	2	2	10
計	35	35	35	35	35	35	210

なお、全体計画であるが、本来全職員で作成するものであるが、年間指導計画作成と並行して、部員が作成してきたので、年間指導計画ができたのを機会に、あわせて印刷し配布した。それについての全職員での検討は、後の職員研修の場において行なうことにした。

(4) 資料の購入

いよいよ2学期を迎え、年間指導計画も補正されたので、指導法の研究会を計画した。しかし、資料といっても、一学期に作ったいくつかの読み物があるだけなので、読み物は、そのつど少しずつ作るとしてもスライドや紙しばいは早く用意したいと考えた。

そこで、学校長におねがいで、購入許可を得たのち、各学年の年間指導計画の中にとりあげられているスライドをできるだけ購入した。

<購入スライド・紙しばいーらん>

きれいなからだ	ほくのなやみ	もんととわんきち
とけい	一郎君の失敗	りすさんと森の友だち
なかまはずれ	ひとふさのぶどう	たのしいきょうしゅく
はをみがきましょう	どちらが正しいか	文ぼろぐのななし
うそ	手足と胃ぶくろ	まあちゃんは1年生
フットベースボール	江戸城明けわたし	わすれもの
いじわる	こうつうのきまり	なかまはずれ
キューリー夫人	どぶにおちた工作	道徳 紙しばい I
津田梅子	ろうかをきれいに	" " II

(5) 第1回校内指導研究会

9月、中村章先生、茂呂保雄先生においでいただき、校内の指導法研究会をもつことが決まった。授業は、2、4、6年からクラスずつ計3クラスが行なうことになり、それぞれの授業者は、他校の各種研究物を参考に研究し、同僚の意見や考えもとり入れて、とにかく指導案を作成し、授業を行なってみた。

はじめて道徳の授業をみていただいたというわりには、うまくいったのではないかと考え、以後の研究に意欲がわいた。

その時に扱った主題名と内容項目は、

2年-ゆりきのあるひつじ(11)

絵ばなし中心

4年一おつりをかえしに(10)

録音中心

6年一くるしみをこえて(12)

読み物中心であった。

その時の指導案の形式は、下のようなものであったが、授業後の話し合いの時に、指導の先生から「学習指導ハンドブック」にもあるように、事前指導、事後指導についても指導案の中にもりこむ必要があるとので指導をいただいた。

(その時の指導案の形式)

- | |
|------------------------------------|
| 1 主 題 名 |
| 2 主題設定の理由 |
| 3 ねらい |
| 4 資料選択の理由と利用の観点(これを2に含めて書いたものもあった) |
| 5 展 開 |

なお、全体会の席上で、本校から事前におねがいしておいた、資料選択の条件、視聴覚利用の際の事前・事後の指導法、発問について留意する点、評価についてなどの質問事項についてご指導をいただいた。それとあわせて、「学習指導ハンドブック」「道徳指導の諸問題」についての解説ならびに利用のしかたについてで指導をいただいた。

また、その機会をとらえて、夏休み中に行なわれた「教育課程研究集会、道徳部会」に参加した道徳主任からの報告資料についてもとりあつかっていただいた。

(6) 全体計画についての校内研修会(全職員)

2, 4, 6年が授業を行なった研究会がすむと、次回は1, 3, 5年とあって、どの学年もその準備にとりかかった。しかし、他のつごうもあって、11月の予定だった研究授業はとりやめ、補正されたままだった全体計画についての研修会をもつことにした。

さいわいに第一中学校の全体計画もいただいたし、その研究会に教頭の山口先生も出席されていたので、その話などもお聞きすることにして、研究会をもうけた。

その際に、文部省から出された「道徳教育の諸問題」を大いに活用させていただき、全職員に全体計画の必要性等を理解していただいた。

その時に話し合われたおもな事項は、①全体計画を全教師が作らなければならない理由 ②道徳の時間と道徳教育との関係 ③道徳の時間と他の教育活動との役割のちがい、④国語とのちがい、⑤生活指導とのちがい ④教育課程外の教育活動における道徳教育 ⑤家庭および地域社会における道徳教育との関連 ⑥道徳教育の全体計画の必要性などであった。それに加えて、学年の重点目標について、各価値のとりあげ方のようす。主題変更に対する考え方はどうあるべきかなどについても話し合いを行なった。

<学年重点目標>

(例) 2 年

ア 生命を尊び、健康に注意して安全の保持に努める。

イ わがままな行ないをしない。

ウ 友だちと仲よくし、はげましたり助けあったりする。

今までの全体計画と異なった点だけをここにのべてみた。

1 低・中・高にしか分けていなかった重点目標を各学年別にした。

2 教科外の活動における道德教育についての計画を指導の場、目標、指導要項、留意点などに分けて明らかにし、はっきりと打ちだした。

3 家庭および地域社会との協力という項を設定し、全体の中にはっきりと位置づけた。

4 各教科や特別教育活動などが道德の時間とどう関連しているかが、一目でわかるように体系づけた。

(7) 第2回校内指導法研究会

せっかく意気こんでいたのに中止になってしまった11月の指導法研究会であったが、3学期も始まってすぐ2月14日に行なうことが決められた。今回は指導の先生においていただくことができないので、もじどおりわたしたち職員だけの研究会であった。

そこで、授業者は前回指導いただいたことを参考にして指導案を作った。授業者は指導案作成のしかたや指導法の実際について学ぶことをねらい、他の職員は見学することによって指導法についての理解を深めようということをおねらった。

指導案の形式は「学習指導ハンドブック」にあるものを取りあげ、大きく事前指導、導入、展開、終末、事後指導と分ける方法と、細かく展開過程を書く方法の一つとした。当日扱った学年、主題名、価値については、つぎのようであった。

1 年—おれたクレヨン 5

絵中心

3 年—やぶられた本 28

読み物中心

5 年—こおった道 32

録音中心

今回はじめて指導案の中にとり入れた事前指導や事後指導が指導案のどこに、どう位置づけられているかをはっきりするために、例をあげてみた。

道 徳 指 導 案

43年2月14日(水)

1年3組 指導者○○○○

1 主題名 おれたクレヨン

2 主題設定の理由 (略)

3 ねらい (略)

4 事前指導

落とし物がでると、落と物入れに入れたり、名まえがついていれば、その人に渡すようにさせ

ている。

落とし物のようすについての調査をする。

	10日間	1日分
えんぴつ	11本	3本
色えんぴつ	9	0
けしゴム	5	2
クレヨン	24	3

5 事後指導

- ・ 毎時間の指導の中に、おりにふれ、時をみて学習したことを生かすようにさせる。
- ・ 学用品のいたんだものも、自分たちで修理したり、名まえをつけるよう心がけさせる。

6 展開

展開過程	学習内容・活動	時間 資 料	指導上の留意点
問題に気づかせる	1 おとしものを見て話し合う。	5 おとしもの入れ	・ おとしものが多いことに気づかせる。

(以下、略)

授業が終わったあと、低・中・高の三ブロックに分かれて、授業者をまじえた反省会を行なった。その会に出された意見のいくつかを書きあげてみると次のようである。①価値を理解させるのにどう指導したらよいか。②価値の一般化や意欲づけのしかたをどうするか。③発言のしかたを学校で統一し、発言方法を身につけさせる必要があるだろう。④教師はもっと発問を考慮する必要があるだろう。⑤価値の一的化にとりあつかう資料についてはもっと精選する必要があるだろう。⑥意欲づけは、結論の形ばかりでなく、問題提示の形で終了させてもよいのではないだろうか。⑦ねらいをしっかりとらえ、他へ派生しないようにする必要がある。⑧優等生的発言ばかりでなく、逆の発言もほしかった。そういう発言のできるふんい気作りにくふうを。⑨低学年では、1時間の流れの中に作業的なものを取り入れてもよいのではないだろうかなど。そして、やっぱり指導の先生がほしかったというのが圧倒的であった。

4 おわりに

以上、1年の歩みを述べてみたが、どうみてもこれが実践記録として適当とは思われない。しかし、はじめにも述べたようにこれを発表することによって、他校の先生方にいろいろとご指導をいただきたいと考えたものなので、ぜひ細部にわたってのていねいなご指導をおねがいしたい。

今後のわたしたちの行なうべき仕事は、第2回の指導法研究会の反省にそっくりあらわされていものと思う。

それは、

- 1 年間指導計画をもとに展開計画をつくること
- 2 資料をもっと数多く収集し、保管管理すること。
- 3 指導法の研究をさらに深める。

具体的には、

- (1) 発問をくふうする。
- (2) テレビラジオを有効に使用する。
- (3) 展開過程の研究を深める。
- (4) 指導の形をしっかりとつかむ。
- (5) 話し合いのしかたを児童に身につけさせるなどである。

最後に、かさねて諸先生方のご指導をおねがいします。

感 想

三重小道徳研究部6人の先生方が行なった仕事は、全体計画、年間指導計画の補正、および道徳時間の指導法の研究であった。まことにこの先生方が言われるように地味な実践の記録である。極端な言い方をすれば、どこにでもあるような気持ちのするものであろう。しかし一般には誰にでもできそうな、しかも誰れでもがやらねばならないこのような地味な仕事を、ち密な計画と優れた感覚で着実に実践しているところは以外に少ない。主題の学年的系列、同月別配当、主題名、主題のねらい等年間指導計画補正の観点、あるいは全体計画補正のための全職員による研修会開催、また事前指導・事後指導の考え方をとり入れた点など、またこれらの事を手がけていない学校にとっては、大いに参考になるであろう。改めて「平凡に光る」三重小道徳研究部の方々に敬意を表したい。